文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 23, pp. 1 ～ 10, 2022. 3

幼児のごっこ遊びに表れる基本的動作

椛島　香代*・安達　祐亮**

幼稚園 3 歳児学年担任による保育記録のうち好きな遊びの場面で行われたごっこ遊びに注目し，5 つのエピソード記録にした．エピソード記録を 36 の基本的動作に分類し，考察を行った．その結果，14 種類の基本的動作が出現していた．子どもはごっこの登場人物になりきって表現する，遊びに使うものを集める，取りに行くなど移動系動作が多く出現するとともに，身の回りにある物的環境とかかわってごっこのイメージを実現する際に多様な基本的動作が表れた．移動系動作の出現要因を分析すると，イメージの表現，集めることの楽しさ，新たなイメージの実現が主な要因となっていた．遊びの充実により，基本的動作が継続され運動量が増えることも明らかになった．また，保育者の援助により遊びが盛り上がったり，新たなイメージが想起されると動作が継続したり，新たな基本的動作が出現する．ごっこ遊びにおいては，保育者が遊びのイメージに働きかけることで子どもの豊かな基本的動作経験につながっていくことが示唆される．

Key words：ごっこ遊び，基本的動作，保育者の援助，3 歳児

Ⅰ　はじめに

遊びの重要性は幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に明記されており，幼児教育に携わる者は，遊びを理解し，遊びについて考察することが必須である．例えば，幼稚園教育要領には「幼児の自発的な活動としての遊びは，心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して，遊びを通しての指導を中心として第 2 章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること.」とある．「第 2 章に示すねらいが総合的に達成されるようにする」とは，五領域に示されたねらいのことである. 幼児は, 遊びを通して五領域に関連する様々な経験を積み重ね，心と身体が育っていくと解釈できる．つまり，五領域に示された各領域のねらいはそれぞれが独立して達成されるものではなく，子どもが遊ぶことを通して同時進行的に複数の領域のねらいを達成していくと言えるだろう．保育者は幼児の遊びを観察し，幼児の育ちを多面的に把握していく必要がある．幼児の遊びを理解することは，幼児が行動する姿を捉え理解することである．保育者は，幼児の行動に注目し，解釈し，理解を深めるために考察する必要がある．

本研究では，遊びを行う幼児の身体に注目したい．人間が環境にかかわる時, 身体を使って行う．環境に働きかけ，身体に備わった感覚器官を通して身の回りのモノ，ヒト，コトを感じ，捉えるからである．また，幼児自身の感情や思考なども身体を通して表現される．例えば，「しょんぼりし

＊人間学部児童発達学科
＊＊文京学院大学ふじみ野幼稚園

ている」とは，表情だけでなくうなだれた様子やたたずまいなどからもよみとれる．砂場で何度も水を汲んできては流し，砂に水が吸い込まれる様子をじっと見ている幼児からは，砂の吸水性に興味を持ち何度も水を流して観察し，砂のもつ特性について捉えようとしているのではないかと推測ができる．保育者は，観察対象である幼児の身体の有り様や基本的動作から多くのことをよみとり，解釈し，理解しているのである．幼児が遊びの中で身体全体を使い，自分の身体を自由に動かしていくことは幼児の経験を広げ，深め，発達を促すと言えるだろう．言い換えると，体験から学ぶということである．小川（2020）は，体験から学ぶことについて「状況（環境）に適応し，そこから生きる術を獲得する身体的学びであり，学ぶ対象がモノであれ，人であれ，その学び方は身体を使って獲得する術なのである.」と述べている．幼児の身体諸機能の発達を促すことは，より質の高い学びに結びつけるために大切なことであるといえよう．

一方で，幼児期の運動能力に関して低下傾向，また種目によっては横ばい傾向が続いている．幼児教育の場で身体を動かすことの楽しさを伝えることは重要な責務である．しかし，運動技能獲得のみに重点をおきすぎると，反復や練習が指導の中心となり幼児にとって動くことの楽しさを味わうことが損なわれてしまう恐れがある．また，動くことは幼児が遊びに取り組む際の手段であり，動くことそのものが目的になっていないことも多い. 遊びに夢中になればなるほど幼児は身体の様々な部位を活用し, 結果として多様な動きを経験し，身体諸機能を発達させていくと言えるだろう. よって，遊びの充実が欠かせないのである．小川（前出）も指摘するように，自らの課題や興味がある活動に対しては繰り返し取り組み, 反復する．様々な遊びの中で幼児がどのような動きを経験し，獲得しているのかを捉えることで，幼児の運動発達の実態を把握し，遊びの中で運動発達を促すことができるだろう．このようなことから，幼児が選んだ遊びの中で多様な運動経験を提供することで身体諸機能の発達を促すことが重要である．

幼児教育においては遊びを中心とした指導を行うことから，遊びの中で豊かな運動経験を図る，遊びの充実を図ることは保育者の重要な役割であるといえよう．近藤（1994）は「運動について積極的，意欲的に幼児の成長発達に結びつけて考えていなかったり，幼児教育に実際に携わる教師の活動に対する消極さ」を指摘している．幼児は，遊びの中で多くの動きを経験していても，教師が的確にとらえて環境構成や援助に生かせていないという指摘である．鬼遊びなどルールのある集団遊びやボールや縄を使用した活動などは運動遊びに分類され, 幼児の動きに着目されることは多い. しかし，実際には幼児はどのような遊びの中でも身体を使い，基本的動作は出現しているはずである．近藤が指摘するように，運動遊び以外の遊びの中で幼児の動きと結び付けて考察することが少ないのではないか．五領域を総合的に捉えるべきと言いつつも行っている遊びの種類によって，ある領域からのみとらえている危険性もある．例えば，砂遊びをしている子どもが水を何度も運ぶという行為は，幼児が荷重基本的動作を多く経験するとともに平衡性を培っている．運動遊びのみならず，遊びの中で様々な動きを経験していることが推測される．運動遊び以外の遊びの中で幼児がどのような運動経験をしているのかということに注目してみる必要もある．そこで，本研究では，基本的動作に着目して 3 歳児のごっこ遊びを解析してみたい．なぜならば，ごっこ遊びはどの幼児教育施設でも行われている遊びであり，特に 3 歳児が好んで行う遊びであることが知られているからである．幼児のもつイメージをもとに遊びが進み，多様な活動内容，活動展開をみることができる．また，室内，戸外両方で展開されることも多いことから，幼児は様々な基本的動作を経験することができる遊びではないかと考えられるからである．もう一つ，本研究では保育者のかかわりと幼児の基本的動作との関係にも注目したい．近藤（前出）が指摘しているように保育者が遊びにどのようにかかわるかによって，幼児が経験できる基本的動作にも違いが出てくると考えられる．保育者のかかわりと幼児の基本的動作の関係を考察し，多様な運動経験を提供する保育者の役割についても考えてみたい．

Ⅱ　研究方法

(1) 手続き

研究対象園：A 幼稚園 3 歳児

観察対象場面：好きな遊び場面

資料収集期間：20XX 年 9 月～ 11 月

分析対象資料：保育者（共同執筆者）の記録からごっこ遊びの部分に注目し，執筆者 2 名で内容を検討する．保育者がそばで観察できていたと判断できる部分をエピソード記録に再構成し，分析対象資料とする．本研究では 5 エピソードを対象とする．

分析方法：抽出されたエピソード記録を分析する．具体的には，遊びの中でみられた幼児の基本的動作を以下に示す表 1 をもとに基本的動作の番号で分類する．共同執筆者 2 名が記録を読みそれぞれで分析し，一致しない点については解釈を話し合うことで調整を行った．さらに，幼児の動きとの関連を考察するため，保育者のかかわりは別途欄を設け①②③…で示した．これらの分析をもとに考察を行う．

倫理的配慮：対象園では保育実践研究を積極的に行っていることから本研究について幼稚園の承諾を得ているとともに，観察や分析に関して園児

表 1．36 の基本的動作

基本的動作		動作例
平衡系動作	1 たつ	たつ　たちあがる　かがむ　しゃがむ　すわる
	2 おきる	ねる　ねころぶ－おきる　おきあがる
	3 まわる	まわる　まわす－ころがる　ころがす
	4 くむ	つみかさなる　くむ　おんぶする
	5 わたる	わたる　とんでわたる　あるいてわたる　はしってわたる
	6 ぶらさがる	
	7 さかだちする	
	8 のる	のる　のりまわす
	9 うく	まっすううく　まるくなってうく　あおむけにうく　うつぶせにうく
移動系動作	10 あるく	あるく　ふむ－とまる
	11 はしる	はしる　かける　おいかける　にげる－とまる
	12 はねる	はねる　スキップする　ホップする　ギャロップする　2 ステップする
	13 すべる	
	14 とぶ（垂直に）	とぶ　とびつく　とびあがる　とびこす
	15 のぼる	のぼる　はいのぼる　よじのぼる　とびのる－おりる　すべりおりる　とびおりる
	16 くぐる	くぐる　くぐりぬける　はいる　はいりこむ
	17 はう	
	18 およぐ	およぐ　もぐる
操作系動作	19 もつ	かつぐ　もつ　あげる　もちあげる－おろす
	20 ささえる	
	21 はこぶ	はこぶ　うごかす
	22 おす	たおす　つきおとす　おす　おしだす
	23 おさえる	おさえる　おさえつける　もたれる　もたれかかる
	24 こぐ	
	25 つかむ	つかむ　つかまえる
	26 あてる	あてる　あたる　ぶつける　ぶつかる
	27 とる	とる　とめる　うける　うけとめる
	28 わたす	
	29 つむ	つむ　つみあげる－くずす
	30 ほる	ほる　けずる
	31 ふる	ふる　ふりまわす
	32 なげる	なげる　なげあてる　あてる　ぶつける
	33 うつ	うつ　うちあげる　うちとばす　たたく
	34 ける	ける　けりあげる　けりとばす
	35 ひく	おこす　ひっぱりおこす　ひく　ひっぱる
	36 たおす	たおす　おしたおす

個人が特定されないこと等を保護者に説明し保護者からも承諾を得ている．

(2) 基本的動作について

幼児期の粗大運動を分類するための基本的動作は体育科学センター小委員会（1980）が 84 の基本的動作としてまとめている．その後，油野（1988），吉田（2005）などが再構成を行うなど基本的動作を整理しまとめる取り組みが行われている．また，幼児期運動指針ガイドブック（2013）にも基本動作の一部が取り上げられており，白金（2017）など基本動作の研究も見られる．現在では 36 にまとめられていることが多いため，本研究においては，36 の基本的動作をもとに幼児の動きを分析することとする（表 1）．

Ⅲ　結果と考察

1．エピソード記録の分析と考察

エピソード記録をもとにごっこ遊びにおける基本的動作を分析し，考察を行う．エピソード記録の右欄に表 1 の基本的動作を分類した．保育者の援助と基本的動作との関連を考察するため，保育者の援助は記録中に援助欄を設け，①②…として整理した．

(1) クルマごっこ

基本的動作を表 2 にまとめた．10. あるく，11.はしる　の移動系基本的動作が多くみられる．

幼児はクルマのキャラクターのイメージを持ち，なりきっていることから，そのイメージを走ることで表している．保育者がヘッドバンドを用

表 2．なりきって走る

保育者の援助	幼児と保育者の行動	基本動作の種類
①	身支度が終わると，A 児は全身に力を込めて廊下を走り始める．	10，11
	A 児がよりイメージを持ちながら遊ぶことの面白さを味わうこと，イメージが他児にもわかるように車のキャラクターの絵を付けたヘッドバンドを用意する．	
	A 児はヘッドバンドを見るなり，すぐに頭にかぶり走り出す．	10，11
②	B 児も「私もほしい」と言い，二人でヘッドバンドをつけ，「ブーン」と言いながら廊下を走っている．	10，11
	数日後，A 児が他のキャラクターも欲しいと言い，保育者がヘッドバンドの種類を増やす．悪役のヘッドバンドも作っておく．	
	保育者が悪役のヘッドバンドをつけると，A 児は「レースしよう」と言って走りだす．	11
	二人で廊下を走りながら，体を保育者にぶつけてくる．保育者も負けじとぶつけ返すと，さらに強い力でぶつけ返してくる．	11，22
③	アニメキャラクターになりきって走る遊びが数名の幼児の間で行われるようになる．	
	廊下や保育室で走っていると，他の遊びと動線が交わることも多かったため，保育者は，なりきって走る楽しさがより味わえるように遊戯室でも走れるようにする．	
	他クラス前廊下や遊戯室でも「ブーン」というエンジン音をまねした声を出しながら走っている．	10，11
	遊戯室は，保育室の倍以上の広さがあり，仕切り等もなく，広い空間が広がっており，舞台上には，巧技台やマットなどが置かれている．	
	巧技台などに気づいた幼児は，巧技台の上に登ったり，大きなウレタンマットの上をとび跳ねたりし始める．	12，14，15
	それまで声で表現していたエンジン音も消え，「わー」などの感嘆をあげながらとび始めている．	14
	遊戯室にあるウレタンマットに触れてから，走る先が遊戯室になることが多くなってきた．	
	遊戯室までは，ヘッドバンドをつけているものの，ウレタンマットによじ登り、マットの上で転がったり、ジャンプし始めると，ヘッドバンドを自ら外すようにもなってきている．	1，3，12，14，15

意したことから（援助①）さらにイメージが明確になり，11. はしる，10. あるくという基本的動作を継続することができている．保育者が悪役になって参加すると（援助②），22. おす基本的動作が出てきている．新しいイメージが加わることでクルマとして走り回るだけでなく，敵をやっつけるための動きがでてきているのである．

保育者は，動きが活発になってきたことをとらえて遊戯室に誘導している（援助③）．広い場所に行くことで，のびのびと走ることができさらに運動量が増えている．また，幼児がマットや巧技台などの教具に気づき活用することで，12. はねる，14. とぶ，15. のぼる – おりる，とびおりるなどの基本的動作が出てきた．モノの刺激により，遊びのイメージも変化していくとともに，それに伴って基本的動作の種類も変わっている．イメージを豊かにすること，物的環境が変化することで基本的動作の種類が増えてくることがわかる．

(2) キャンプごっこ

表 3–1 冒頭では，子どもはゲームに登場するキャラクターになりながら雑草抜きを行っている．3 歳児では遊びの要素を取り入れつつ様々な作業を行うことも多い．子どもは，イメージを持ちながら雑草抜きを行っており，ごっこ遊びの一環としての活動になっている．この場面では，1. たつ – しゃがむ，10. あるく，19. もつ，21. はこぶ，35. ひく，ひっぱる基本的動作を経験している．この活動は，別の場所にも広がっていき継続している．広範囲を 10. あるくなど運動量の確保にもつながっていると考えられる．さらに，ゲームキャラクターになりつつ植物の世話をする活動から集める活動へ移行し，「キャンプ」のイメージが子どもから出てきてキャンプごっこに発展している．子どもはキャンプをするイメージをもちつつ枝や葉を集め始める．園庭など広い場所で何かを「集める」場合，子どもは自然と 10. あるく，11. はしることをたくさん行うことがわかる．探索，発見という目的をもち，意欲的に集めている場合には無意識に多くの移動系動作が経験できていることになるのだろう．地面に落ちているものを拾う際に，1. たつ – しゃがむ，19. もつ，21. はこぶなどの基本的動作がみられる．保育者が「火」のイメージを提示すると（援助④），その周りをとんだり跳ねたり，走ったり（11. はしる，12. はねる）する基本的動作が出てきた．保育者は子どもたちが集めたものを活用した遊びのイメージを提示し子どもが楽しく遊びを継続できるよう援助しているのである．また，別な場所に遊びの拠点を誘導すると（援助⑤），子どもはその場所の近くにある新しいモノ（オシロイバナ，ドングリ）をみつけている．集める対象が変わることで「集める」行動が持続している（1. たつ – しゃがむ，10. あるく，11. はしる，19. もつ，21. はこぶ）．

表 3–1．集めた草がキャンプのイメージにつながる

保育者の援助	幼児と保育者の行動	基本動作の種類
	C 児と保育者がゲームのキャラクターのイメージを持ちながら園庭の一角にある畑で雑草抜きをしていると，クラスメイトが集まってくる．大きな草はひっぱって抜き、小さな草は摘み取っている．	1，10，19，21，35
	畑の近くの森の中の雑草抜きにも広がっていき，抜いた雑草や落ちていた枝や葉を自然と一か所に集めるようになる．	1，10，19，21，35
	枝がある程度集まると，E 児が「キャンプだ」と言い始め，「キャンプ」という言葉が幼児らに広がり，枝葉を集めることが続いていく．	1，10，19，21，35
④	保育者が火に見立てられるよう赤い画用紙を集めた枝葉の近くに置く．	
	焚火のようなイメージにつながり，火の周りでジャンプをしたり，跳ねまわったり，森の中を走り回り始めたりする．	10，11，12，14
⑤	保育者は、森に蚊が多かったため，キャンプのイメージで遊び続けることは難しいと考え，枝と雑草で作った焚火を，保育室前に移動することを提案する．	
	枝葉で作った焚火が保育室前のテーブルに移動されると，近くに咲いていたオシロイバナの花を摘んだり，落ちていたドングリを拾ったりして焚火の中に入れ始め，焚火のために，自然物を集める遊びが続いていった．	1，10，11，19，21

表 3–2. キャンプのイメージが再び生まれる

保育者の援助	幼児と保育者の行動	基本動作の種類
	幼稚園に隣接している大学の森に出かけ，D 児が木の枝がたくさん落ちていることに気付く．	10
	「キャンプに使えそうだね」と保育者やクラスメイトに言うと，一緒に木の枝を集め始め，袋いっぱいの枝を幼稚園に持ち帰る．	1，10，11，19，21
	D 児が「明日キャンプしようね」と言い木の枝を広げた状態で，降園となる．	
⑥	保育者が大ぶりの枝を井形に組んでおき焚火のようなものを作っておく．	
	翌日，D 児は朝の支度を終えると早速焚火の元へ行き，昨日拾った小ぶりの枝や石も焚火に加えていく．	1，10，11，19，21，29
	その様子に，数名のクラスメイトも加わっていく．	
	E 児は，以前畑で拾い保育室に飾っておいた小ぶりのサツマイモを取りに行き，焚き木の上に置かれていた網の上に乗せる．	1，10，11，19，21，29
⑦	焼いているイメージがより明確になるように保育者がビニールで作った火を用意する．	
	火が用意されると F 児は，保育室で遊んでいた魚のために作っていた折り紙のキャンディーも取りに行く．	10，11.19，21
	網の上に，キャンディーとサツマイモが並ぶ．	
	D 児は，焼いている間に遊べるようにと，保育室にあったオイルタイマーを持ってくる．	10，11，19，21，29
	G 児が「お皿とコップ」と叫び，勢いよく砂場から道具を持ってくると，キャンプで遊んでいた仲間で焚火を囲む．	1，10，11，19，21
	しばらくすると，網板に乗っているサツマイモやキャンディーを皿に盛り，食べるふりをし始める．	19
	水筒を取りに近くを通りかかったクラスメイトもキャンプに興味を持ち，自分たちの水筒を持ってきて，保育者が焚火近くに用意したゴザに座り，水を飲み始める．	1，10，11，19，21
	その姿に，キャンプをしていた幼児も水筒を持ってきて，水を飲み始める．	1，10，11，19，21

表 3–2 では，子どもの「キャンプ」イメージが継続されていることにより，散歩に出かけた別の場所で拾ったものを活用しようとする様子が示されている．拾った枝などを持って帰るために 1. たつ – しゃがむ，10. あるく，11. はしる，19. もつ，20. はこぶという基本的動作が表れている．子ども自身が遊びに使いたいという目的をもっているために幼稚園までの道中も自主的に運んでいる様子がわかる．

子どものイメージを実現するために保育者が遊び場を整えておくと（援助⑥），登園後すぐにその場所に行って遊び始めている．そこでは新たに 29. つむという基本的動作も加わっている．保育者が「火」をイメージしやすいよう援助する（援助⑦）と，子どもも新しいイメージをもち動き始めている. 具体的には, これまでの遊びの中で使ったものを思い出して遊びに使えそうなものを取りに行く行動をしている．必要なものをそろえるために往復するなど 10. あるく，11. はしる，19. もつ，21. はこぶ基本的動作が見られている．この場面では子どもは十分に必要なものが集まった，遊びのイメージが実現できているなど自分が納得できるまで何度も往復することを繰り返しており，自然と運動量が増えている．

表 3–3 では，他のクラスの製作したサツマイモがそばにあったことが刺激となり，子どもから焚火を使って焼き芋をするイメージが出てきた．保育者はサツマイモを製作できるよう材料を設定している（援助⑧）．サツマイモをつくると焚火で焼くイメージで 19. もつ，29. つむ基本的動作が出てきている．段ボール箱をみつけ，中にサツマイモを入れるために 1. たつ – しゃがむ，10. あるく，19. もつ基本的動作が表れている．新たにモノが加わることで，箱の中で焼くイメージで遊びが続いている．遊びが盛り上がってくると，参加者が増えたため保育者は一人ひとりが使えるようトングを作って子どもに渡していく．子どもたちは, 保育者が作ったトングを受け取りに行ったり，

表 3–3. キャンプで食べ物を焼くイメージで遊ぶ

保育者の援助	幼児と保育者の行動	基本動作の種類
	キャンプの場に数名のクラスメイトがいる.	
	他クラスで作っていた画用紙製のサツマイモが，キャンプの近くにあり，焚火でも焼くことになる.	
⑧	保育者は，画用紙製のサツマイモをさらに作れるように新聞紙と画用紙を出す.	
	2 枚の新聞紙を丸め，紫色の画用紙を巻いていく.	
	できたサツマイモは，焚火の網に乗せていく.	19，29
	先日作ったトングを使って，つまんだり，ひっくり返したりしている.	
	H 児は，段ボールの箱を見つけると，サツマイモを全部箱に入れ，網で蓋をしている.	1，10，19
	I 児は段ボールのそばにしゃがみ，保育者に大きな声で「火，持ってきて」と言う.	1
	段ボールの中で焼くという動きが生まれる.	
⑨	クラスメイトの参加も増え，保育者がトングを作っていく.	1，10

焚火の周りでトングでサツマイモをひっくり返しながらサツマイモを焼いたりする遊びを続けていく（1. たつ – しゃがむ，10. あるく）.

(3) さかなづくり

表 4 の事例冒頭では，水に落ちないようにするというイメージを持ちながら 5. わたる，10. あるく，11. はしる，12. はねるなどの基本的動作がみられる．J 児が水というイメージから連想して「さかながいない」と保育者に伝えにきたことからさかなづくりが始まる．保育者が材料を示すことで（援助⑩），さかなづくりに参加する子どもが増え，袋に新聞紙を詰める際に 22. おす基本的動作がみられる．魚が出来上がると，遊びは魚とのかかわりに移っていく．保育者が大きな魚ができるような材料を提供したことで（援助⑩），19. もつ，21. はこぶ，23. おさえるなどの全身でさかなとかかわるとともに，さらにさかなを引きずって遊ぶ 10. あるく，11. はしる，35. ひく基本的動作も加わっている．遊具，用具によって子どもの遊びが変化し，それに伴う基本的動作も変化することが示唆される.

表 4. さかなづくり

保育者の援助	幼児と保育者の行動	基本動作の種類
	海に見立てたブルーシートをしき，その上に牛乳パックの積み木を道のように並べて渡るという遊びが続いている.	5，10，11，12
	J 児が「魚がいないね」と保育者に言いにくる.	10
⑩	保育者は 90 ℓ のビニール袋を用意し，新たなイメージを持って遊びが続いていくように，大きな魚を作ることを提案する.	
	袋の大きさに，J 児の期待も高まる.	
	それを見ていた K 児も魚づくりに参加し始める.	
	新聞紙を破ったり，ちぎったり，丸めたりしながら袋の中に入れていく.	22
	K 児は色画用紙の切り端を見つけると「これはエサね」と言って，袋の中に入れ始める.	22
	さらに切れ端に目を描き，魚を作っては，袋の中に入れていく.	
	大きな魚が出来上がると，抱いたり，上に乗っかったりすることを楽しんでいる.	19，21，23
	大きな魚の存在にクラスメイトが気付き，人数が増えてくると，廊下を引きずりまわしたり，跨ったりして動きも激しくなる.	10，11，19，21，23，35

2. ごっこ遊びで表れた基本的動作について

3歳児のエピソード記録分析から，14種類の基本的動作がみられた．平衡系動作は9種類中3種類，移動系動作は9種類中5種類，操作系動作は18種類中6種類であった．操作系動作の種類が少なくなっているが，ごっこ遊びの中でモノを操作して展開するようなイメージがでてくると経験することも可能だろう．また，今回は3歳児を分析対象をしたため，役割を分担して遊びを展開する場面はみられなかった．表1で保育者が悪役

表5. 移動系動作出現要因の分析

表番号	移動系動作がみられた事例	動作が出現した要因
表2	身支度が終わると，A児は全身に力を込めて廊下を走り始める．	イメージの表現
	A児はヘッドバンドを見るなり，すぐに頭にかぶり走り出す．	イメージの表現
	B児も「私もほしい」と言い，二人でヘッドバンドをつけ，「ブーン」と言いながら廊下を走っている．	イメージの表現
	保育者が悪役のヘッドバンドをつけると，A児は「レースしよう」と言って走りだす．	イメージの表現
	他クラス前廊下や遊戯室でも「ブーン」というエンジン音をまねした声を出しながら走っている．	イメージの表現
表3–1	C児と保育者がゲームのキャラクターのイメージを持ちながら園庭の一角にある畑で雑草抜きをしていると，クラスメイトが集まってくる．大きな草はひっぱって抜き、小さな草は摘み取っている．	イメージの表現
	畑の近くの森の中の雑草抜きにも広がっていき，抜いた雑草や落ちていた枝や葉を自然と一か所に集めるようになる．	集めることの楽しさ
	焚火のようなイメージにつながり，火の周りでジャンプをしたり，跳ねまわったり，森の中を走り回り始めたりする．	うれしさの表現
	枝葉で作った焚火が保育室前のテーブルに移動されると，近くに咲いていたオシロイバナや落ちていたドングリも焚火の中に入れ始め，焚火のために，自然物を集める遊びが続いていった．	集めることへの期待
表3–2	「キャンプに使えそうだね」と保育者やクラスメイトに言うと，一緒に木の枝を集め始め，袋いっぱいの枝を幼稚園に持ち帰る．	集めることへの期待
	翌日，D児は朝の支度を終えると早速焚火の元へ行き，昨日拾った小ぶりの枝や石も焚火に加えていく．	遊びへの期待
	E児は，以前畑で拾い保育室に飾っておいた小ぶりのサツマイモを取りに行き，焚き木の上に置かれていた網の上に乗せる．	新たなイメージの実現
	火が用意されるとF児は，保育室で遊んでいた魚のために作っていた折り紙のキャンディーも取りに行く．	新たなイメージの実現
	D児は，焼いている間に遊べるようにと，保育室にあったオイルタイマーを持ってくる．	新たなイメージの実現
	G児が「お皿とコップ」と叫び，勢いよく砂場から道具を持ってくると，キャンプで遊んでいた仲間で焚火を囲む．	新たなイメージの実現
	水筒を取りに近くを通りかかったクラスメイトもキャンプに興味を持ち，自分たちの水筒を持ってきて，保育者が焚火近くに用意したゴザに座り，水を飲み始める．	遊びへの期待
	その姿に，キャンプをしていた幼児も水筒を持ってきて，水を飲み始める．	新たなイメージの実現
表3–3	H児は，段ボールの箱を見つけると，サツマイモを全部箱に入れ，網で蓋をしている．	新たなイメージの実現
	I児は段ボールのそばにしゃがみ，保育者に大きな声で「火，持ってきて」と言う．	新たなイメージの実現
表4	海に見立てたブルーシートをしき，その上に牛乳パックの積み木を道のように並べて渡るという遊びが続いている．	動き自体の面白さ イメージの表現
	J児が「魚がいないね」と保育者に言いにくる．	保育者への発信
	大きな魚の存在にクラスメイトが気付き，人数が増えてくると，廊下を引きずりまわしたり，跨ったりして動きも激しくなる．	動き自体の面白さ

となった際に 22. おす　がみられたが，モノを活用して遊びを展開することが出てくると，操作系動作も増えるのではないか．子どもの発達段階やごっこのテーマ性，人間関係などが遊びの展開に影響するとともに，子どもが経験できる基本的動作の種類も変化するのではないかと思われる．

また，今回の分析では移動系基本的動作のうち 10. あるく，11. はしる が多く出現していることがわかる．そこで，これらの基本的動作が出現した要因をさらに分析した（表 5）．

ごっこ遊びで役割を演じることにより，その役のイメージを持ちながら動いている「イメージの表現」，遊びの中のイメージを実現するために必要なものを収集する「集めることへの期待」，遊びそのものを楽しむ「うれしさの表現」，遊びの中で新たに生まれたイメージを実現するための「遊びへの期待」「新しいイメージの実現」などが要因として考えられた．ごっこ遊びでは遊びの中で子どもが具体的なイメージをもつ，また新たなイメージを想起できる，楽しめているなど目的を持って行動することが移動系基本的動作出現につながっている．イメージを実現するために動く，必要なものをそろえる，またそろえることそのものにおもしろさを見出すなどである．特に，遊びに集中しているときには，自然と走ることも多くなっている．子どもの運動量を確保するためには，遊びの充実を図ることが重要であることをごっこ遊びの事例からもよみとることができる．

Ⅳ　おわりに

1．ごっこ遊びにおける基本的動作について

ごっこ遊びの事例を基本的動作の観点から分類した．遊びのイメージを具体的に持つこと，遊具，用具など物的環境が充実することで子どもは遊びを継続し，多様な動きを経験できることがわかった．特に移動系動作は多く見られ，目的的に行動することで歩いたり，走ったり運動量が確保できることが示唆された．ごっこ遊びでは，歩くことや走ることそのものが目的にはならず手段として使われている．つまり，子どもが遊びに没頭するような場面ではいつの間にか身体を動かす機会が増えるということである．特に，遊びがさらにおもしろくなりそうな着想を得た時には，モノを取りに行く際にも走っている．動機づけの高さがそのまま動きに表れている．

一方で，操作系基本的動作は，19. もつ，21. はこぶ，22. おす，23. おさえる，29. つむ，35. ひくが出現したが，他の基本的動作はみられなかった．ごっこ遊びのテーマによって経験できる動きも増える可能性もある．例えば，悪役を段ボールで製作し，それをたおす，またはそれに向ってボールを投げてやっつけるイメージなどで遊ぶ場合である．表 4 のさかなづくりでも，さかなをつるすなどすれば，なげる，うつなどの出現の可能性もあるだろう．子どものごっこ遊びのイメージに寄り添いつつ，多様な展開を想定しつつ物的環境構成等工夫していくことで，より多様な基本的動作を経験することが可能になるだろう．

ごっこ遊びでは，手指を使った微細運動も確認できた．草や花を摘み取る（表 3–1），サツマイモやキャンディを皿に盛る（表 3–2），トングを使用してサツマイモをひっくり返す（表 3–3），さかなをつくるために新聞紙を破る，ちぎる，丸める，袋に詰める（表 4）などの動きである．今回は 3 歳児の事例を分析したが，ごっこ遊びでは年齢があがるにつれ必要なものを製作する活動も多くみられることから，微細運動にも注目していく必要があるだろう．今後の課題としたい．

2．保育者の援助との関連で

保育者の援助は，キャラクターのヘッドバンドを作る（表 2），魚作りを提案する（表 4）など「新しい遊びを提案する援助」，保育者自身が悪役になって遊びに参加する（表 2）「人的援助」，ヘッドバンドを増やす（表 2），トングを作る（表 3–3）などの「物的環境へ援助」，遊戯室でも走れるようにする（表 2），枝で焚火のようなものを作っておく（表 3–2）などの「遊び環境への援助」をしていることが分かる．どの援助においても，保育者が援助を行うことで，その後の遊びの展開が変わっている．

保育者の援助の意図に着目してみると，イメージを持ちながら遊ぶことの面白さを味わえるよう

に（表 2），火に見立てられるように（表 3–2），焼いているイメージがより明確になるように（表 3–2），サツマイモをさらに作れるように（表 3–3），新たなイメージを持って遊びが続いていくように（表 4）など，イメージを持つことやイメージの実現をねらっていることが分かる．これは分析対象事例が, ごっこ遊びであるからだろう．

保育者は幼児の運動量や動きを増やすことをねらって援助をしているわけではなかった．あくまで，遊びを盛り上げる，より楽しさを味わうという幼児の活動意欲を高める援助を行っていた．これは，保育者が遊びの充実を図ることを援助の中心においているからである．また，幼児の遊びへの活動意欲を高めることで，自然と動きが大きくなったり，新たな動きが生まれたりするという幼児の特性を捉えているからだろう．保育者においても動きをあくまでも遊びに取り組む際の手段として捉えていると言えるのではないだろうか.

近藤（前出）が指摘したように，遊びを援助する際には保育者は運動的側面を特に意識しているわけではないことはないことがわかる．しかし，本研究において遊びそのものが充実すると子どもの基本的動作の種類や運動量が増えることが明らかになった．保育者が遊びへの援助を適切に行うことで子どもの運動経験も豊かになると考えることができる.

今回は 3 歳児の事例で分析を行った．より運動能力が発達し，遊びのイメージも豊かになる 4, 5 歳児では基本的動作の種類や出現数も増加することが予測される. 今後他学年でも分析を行いたい.

引用文献

近藤充夫（1994）．幼児の運動と心の育ち，世界文化社

厚生労働省（2017）．保育所保育指針，フレーベル館

文部科学省（2017）．幼稚園教育要領，フレーベル館

森司朗，吉田伊津美，筒井清次郎，鈴木康弘，中本浩揮，杉原隆（2018）．幼児の運動能力の現状と運動発達促進のための運動指導及び家庭環境に関する研究，平成 27 ～ 29 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）．幼保連携型認定こども園教育・保育要領，フレーベル館

小川博久（2020）．現代の教育にどう取り組むか―保育・子育てへの展望，わかば社

白金俊二（2017）．幼稚園年長児の自由遊び中の基本的動作と体力・運動能力の関係松本短期大学研究紀要，26, 3-11

体育科学センター（1980）．幼児の基本的動作とその分類，体育科学センター幼カリキュラム小委員会資料

吉田伊津美，森司朗，筒井清次郎，鈴木康弘，中本浩揮（2015）．保育者によって観察された基礎的運動パターンと幼児の運動能力との関係，発育発達研究，68, 1-9.

幼児期運動指針策定委員会（2013）．幼児期運動指針ガイドブック，文部科学省

（2021.9.29 受稿，2021.10.15 受理）